

# 経 済 情 勢 報 告

平成 19 年 1 2 月 6 日  
富山県商工労働部商工企画課

## 1 全国の動き

### (1)概 観

平成19年11月27日発表の月例経済報告等によると、我が国経済の最近の動向をみると、個人消費は、おおむね横ばいとなっている。住宅建設は、このところ減少している。設備投資は、このところ弱い動きがみられるものの、基調として増加している。公共投資は、総じて低調に推移している。輸出は、増加している。輸入は、緩やかに減少している。生産は、持ち直している。企業収益は、改善している。また、企業の業況判断は、大企業製造業では横ばいとなっているものの、全体としては慎重さがみられる。倒産件数は、緩やかな増加傾向にある。雇用情勢は、厳しさが残るなかで、このところ改善に足踏みがみられる。

物価の動向をみると、国内企業物価は、素材価格の上昇により上昇している。消費者物価は、横ばいとなっている。

最近の金融情勢をみると、株価は、16,800円(日経平均株価)台まで上昇した後、14,800円台まで下落している。短期金利についてみると、無担保コールレート(オーバーナイト物)は、0.5%付近で推移している。長期金利は、1.6%台後半まで上昇した後、1.4%台前半まで低下している。

こうしたことから最近の我が国の景気は、このところ一部に弱さがみられるものの、回復している。

先行きについては、企業部門の好調さが持続し、これが家計部門へ波及し国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれる。一方、サブプライム住宅ローン問題を背景とする金融資本市場の変動や原油価格の動向が内外経済に与える影響等には留意する必要がある。

政府は、「経済財政改革の基本方針2007」に基づき、改革への取組を加速・深化する。

民間需要主導の持続的な成長を図るとともに、これと両立する安定的な物価上昇率を定着させるため、政府と日本銀行は、上記基本方針に示されたマクロ経済運営に関する基本的視点を共有し、政策運営を行う。

主な指標	指数等	前月(期)比	前年同月比
実質国内総生産(7~9月速報)	559.7兆円	0.6%	(年率) 2.6%
鉱工業生産指数(10月速報)	112.1	1.6%	4.7%
鉱工業在庫指数(10月速報)	97.7	0.6%	2.0%
大型小売店販売額(10月速報)	17,156億円	(全店ベース)	0.2%
新設住宅着工戸数(10月)	76,920戸	22.1%	35.0%
国内企業物価指数(10月速報)	103.9	0.3%	2.4%
消費者物価指数(10月総合)	100.9	0.3%	0.3%
有効求人倍率(10月)	1.02倍	0.03ポイント	0.05ポイント

指数は、消費者物価指数のみ平成17年=100、それ以外は平成12年=100

鉱工業生産指数及び鉱工業在庫指数の前月(期)比は季節調整済指数、前年同月比は原指数のもの

## (2)国内需要

個人消費は、おおむね横ばいとなっている。家計調査でみると、実質消費支出は、二人以上の世帯では8月は前年同月比1.0%増の後、9月は前年同月比2.9%増となった。小売売上面からみると、10月の大型小売店（百貨店・スーパー等）販売額（速報値）は、1兆7,156億円で、前年同月比0.2%減（既存店は1.8%減）となった。全国百貨店販売額は、9月は前年同月比4.0%減（既存店は2.7%減）の後、10月は同2.8%減（既存店は1.6%減）となった。スーパー売上高は、9月は前年同月比2.2%増（既存店は1.5%減）の後、10月は前年同月比1.6%増（既存店は1.9%減）となった。耐久消費財の販売をみると、乗用車（軽を含む。）の新車新規登録台数は、10月は前年同月比1.2%増の後、11月（速報値）は同0.6%増となった。

住宅建設は、このところ減少している。新設住宅着工戸数をみると、総戸数は前年同月比で9月に44.0%減の後、10月は同35.0%減の76,920戸となり、内訳では持家が前年同月比8.0%減、貸家は同40.2%減、分譲住宅は同50.2%減となった。

設備投資は、このところ弱い動きがみられるものの、基調として増加している。日本銀行「企業短期経済観測調査」（19年9月調査）により設備投資の年度計画をみると、19年度設備投資計画は、大企業では製造業で前年度比12.1%増、非製造業で同6.7%増となっており、全産業では同8.7%増となっている。中小企業では、製造業で前年度比13.6%減、非製造業で同8.9%減となっており、全産業では同10.5%減となっている。

公共投資は、総じて低調に推移している。公共工事前払金保証事業統計（北海道建設業信用保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱調べ）で公共工事請負金額をみると、9月は1兆1,115億59百万円で前年同月比12.1%減の後、10月は1兆1,742億27百万円で同3.2%減となった。

## (3)生産・雇用

鉱工業生産の動きをみると、生産は、持ち直している。鉱工業生産指数（平成12年＝100、季節調整済）は、9月に110.3となった後、10月（速報）は112.1と前月比1.6%上昇（前年同月比、原指数4.7%上昇）となった。鉱工業生産者出荷指数は、9月に114.4となった後、10月（速報）は116.8と前月比2.1%上昇（前年同月比、原指数6.6%上昇）となった。鉱工業生産者製品在庫指数は、9月に97.1となった後、10月（速報）は97.7と前月比0.6%上昇（前年同月比、原指数2.0%上昇）となった。また、鉱工業生産者在庫率指数は、9月は103.8となった後、10月（速報）は98.5と前月比5.1%低下（前年同月比、原指数0.9%低下）となった。

雇用情勢は、厳しさが残るなかで、このところ改善に足踏みがみられる。有効求人倍率（季節調整値）は、9月1.05倍の後、10月は1.02倍となった。完全失業者数は、10月は271万人で、完全失業率（季節調整値）は、9月4.0%の後、10月も4.0%となった。所定外労働時間指数（平成17年＝100、製造業：事業所規模30人以上）は、9月は前年同月比で1.2%増の後、10月（速報）は前年同月比2.8%増となった。現金給与総額（製造業：事業所規模30人以上）は、9月は前年同月比で0.1%増の後、10月（速報）も前年同月比0.1%増となった。

企業の動向をみると、企業収益は、改善している。また、企業の業況判断は、大企業製造業では横ばいとなっているものの、全体としては慎重さがみられる。前記「企業短期経済観測調査」（19年9月調査）によると、企業全体（全産業）では、経常利益は19年度上期には前年同期比0.9%減益の後、19年度下期には1.9%の増益が見込まれている。産業別にみると、製造業では19年度上期に前年同期比1.2%増益の後、19年度下期には前年同期比2.3%の増益

が見込まれている。また、非製造業では19年度上期に前年同期比2.8%減益の後、19年度下期には同1.6%の増益が見込まれている。

こうしたなかで企業の業況判断をみると、大企業製造業の業況判断は2四半期連続の横ばい、大企業非製造業の業況判断は19四半期ぶりの悪化となった。中小企業製造業の業況判断は3四半期連続、中小企業非製造業の業況判断は2四半期連続の悪化となった。

倒産件数は、緩やかな増加傾向にある。企業倒産（負債額1,000万円以上、東京商工リサーチ調べ）の状況を見ると、10月は1,260件（前年同月比8.1%増）、負債総額4,612億円（同25.2%減）となっている。

#### (4)物価

国内企業物価は素材価格の上昇により上昇している。消費者物価は、横ばいとなっている。国内企業物価は、9月は前月比0.1%減（前年同月比1.7%上昇）の後、10月（速報値）は前月比0.3%増（前年同月比2.4%上昇）となった。10月の消費者物価指数（全国）をみると、総合指数は前月比0.3%上昇（前年同月比0.3%上昇）となった。また、生鮮食品を除く総合指数は、前月比0.2%上昇（前年同月比0.1%上昇）となった。次に11月の動きを東京都区部中旬速報値でみると、総合指数は前月比0.3%下落（前年同月比0.3%上昇）となった。また、生鮮食品を除く総合指数は、前月と同水準（前年同月比0.1%上昇）となった。

#### (5)金融・財政

最近の金融情勢をみると、長期金利は、1.6%台後半まで上昇した後、1.4%台前半まで低下している。短期金利についてみると、無担保コールレート（オーバーナイト物）は、0.5%付近で推移している。

株価は、16,800円（日経平均株価）台まで上昇した後、14,800円台まで下落している。

マネーサプライ（M2+C D）は、10月（速報）は、前年同月比1.9%増となった。

#### (6)その他の動き

9月の景気動向指数の概要（内閣府発表）

内閣府が11月16日に発表した「9月の景気動向指数（DI）」（速報からの改訂状況）によると、数か月先の景気の先行きを占う先行指数は0.0%、景気の現況を示す一致指数は60.0%、半年から1年遅行する遅行指数は20.0%となった。

先行指数は、最終需要財在庫率指数（逆サイクル）など11系列がマイナスとなったことなどから、2か月連続で50.0%を下回った。

一致指数は、商業販売額（卸売業）（前年同月比）がマイナスとなったものの、生産指数（鉱工業）など6系列がプラスとなったことなどから、6か月連続で50.0%を上回った。

遅行指数は、家計消費支出（全国勤労者世帯、名目）（前年同月比）がプラスとなったものの、第3次産業活動指数（対事業所サービス業）など4系列がマイナスとなったことから、2か月連続で50.0%を下回った。

## 2 富山県の動き

### (1)概況

本県経済をみると、個人消費は、一部に持ち直しの動きがみられるものの、おおむね横ばいとなっている。住宅建設は、弱含んでいる。設備投資は、引き続き増加している。公共投資は、低調に推移している。生産は、増加している。雇用情勢は、厳しさが残るものの、引き続き改善している。倒産は、件数、負債総額ともに増加した。消費者物価は、横ばいとなっている。

こうしたことから最近の本県の景気は、生産や設備投資が改善するなど、緩やかに回復している。先行きについては、原油価格の動向が県内経済に与える影響等に留意する必要がある。

県としては、公共事業の重点的・効果的な実施や、IT、バイオ、深層水等の成長産業の振興、金融対策などの中小企業支援、若者の就業支援、高齢者や障害者雇用の推進などの施策を総合的、効果的に進めていく。

主な指標	指数等	前月(期)比	前年同月比
鉱工業生産指数(9月)	104.1	1.6%	5.4%
鉱工業在庫指数(9月)	100.2	1.5%	0.1%
大型小売店販売額(10月速報)	10,682百万円	(全店ベース)	3.9%
新設住宅着工戸数(10月)	745戸	49.9%	24.9%
消費者物価指数(10月・富山市)	100.6	0.5%	0.7%
常用雇用指数(9月・全産業)	105.5	0.4%	2.8%
所定外労働時間指数(9月・製造業)	99.5	4.7%	7.1%
有効求人倍率(10月・季節調整値)	1.12倍	0.05 <sup>ポ</sup> ｲﾝﾄ	0.13 <sup>ポ</sup> ｲﾝﾄ

指数は、鉱工業生産・在庫指数のみ平成12年=100、それ以外は平成17年=100  
常用雇用指数及び所定外労働時間指数は、規模30人以上の事業所

### (2)個人消費

個人消費は、一部に持ち直しの動きがみられるものの、おおむね横ばいとなっている。大型小売店(百貨店・スーパー等)販売額をみると、9月は100億84百万円で前年同月比4.0%増(既存店は同3.7%増)の後、10月(速報)は106億82百万円で前年同月比3.9%増(既存店は同1.9%増)となった。コンビニエンスストア販売額(北陸財務局調べ)をみると、8月は53億99百万円で前年同月比1.1%増となった後、9月は48億42百万円で前年同月比2.6%増となった。また、耐久消費財の販売動向を乗用車(軽含む。)の新車新規登録台数で見ると、10月は3,535台で前年同月比4.1%増の後、11月は3,833台で同5.5%増となった。また、家計調査によると、7-9月期の平均実質消費支出(二人以上の世帯)は319,923円で、前年同期比4.0%減と2期連続で減少した。

### (3)住宅建設

住宅建設は、弱含んでいる。新設住宅着工戸数は、9月は総戸数497戸(前年同月比44.3%減)の後、10月は総戸数745戸(同24.9%減)であった。内訳をみると、持家は308戸で前年同月比20.4%減、貸家は403戸で同13.7%減、分譲住宅は34戸で同75.2%減となっている。

#### (4)設備投資

設備投資は、引き続き増加している。日本銀行金沢支店「北陸3県企業短期経済観測調査」（19年9月調査）により、19年度設備投資計画をみると、全産業で前年度比14.8%増となり、堅調に推移している（除く石油製品、電気・ガス）。内訳は、製造業で前年度比20.3%増となり、非製造業で前年度比2.1%増となった。

#### (5)公共投資

公共投資は、低調に推移している。公共工事前払金保証事業統計（北海道建設業信用保証株、東日本建設業保証株、西日本建設業保証株調べ）で公共工事請負金額をみると、9月は131億42百万円で前年同月比10.6%減の後、10月は132億69百万円で、同4.1%増となり3か月ぶりに増加したものの、引き続き低調に推移している。

#### (6)生産

鉱工業生産をみると、生産は、増加している。鉱工業生産指数（平成12年＝100、季節調整済）は、8月に105.8となった後、9月は前月比1.6%低下の104.1（前年同月比5.4%低下）となったが、指数が130を上回った一般機械工業を含め、13業種中4業種で指数が110を上回っており、引き続き高い水準で推移している。業種別に動き（前月比）をみると、化学工業、金属製品工業など6業種が上昇し、電気機械工業、一般機械工業など7業種が低下した。

鉱工業生産者製品在庫指数は、8月に98.7となった後、9月は前月比1.5%上昇の100.2（前年同月比0.1%上昇）と3か月ぶりに上昇した。これは、非鉄金属工業、プラスチック製品工業など7業種が低下したものの、化学工業、輸送機械工業など6業種が上昇したためである。

#### (7)雇用情勢

雇用情勢は、厳しさが残るものの、引き続き改善している。月間有効求人数（パート含む。）は、10月22,425人（前年同月比8.9%減）、月間有効求職者数（パート含む。）は、10月18,606人（同2.0%増）となった。有効求人倍率（季節調整済）は、9月1.17倍の後、10月は1.12倍となり、引き続き1倍台で推移している。常用雇用指数（平成17年＝100、全産業：事業所規模30人以上）は、8月に105.9となった後、9月は105.5で前月比0.4%減（前年同月比2.8%増）となった。所定外労働時間指数（製造業：事業所規模30人以上）をみると、8月に前年同月比8.1%減の後、9月は同7.1%減となった。現金給与総額（実質）は、事業所規模5人以上では、8月に前年同月比4.9%減となった後、9月は同1.2%増となった。

#### (8)企業倒産

企業倒産は、件数、負債総額ともに増加した。企業倒産（負債額1,000万円以上、東京商工リサーチ富山支店調）の状況をみると、10月に9件、負債総額6億14百万円（前年同月：14件、42億92百万円）の後、11月の件数は11件、負債総額は、24億13百万円（同7件、45億96百万円）となった。

業種別では、建設業、金融・証券保険その他が各3件、一般・精密・機械工具が2件、運搬・電気機械器具、衣服・繊維製品、食品が各1件であった。破綻原因別では、不況型倒産である販売不振が9件、他社倒産の余波が2件であった。

## (9)物価

消費者物価は、横ばいとなっている。富山市の消費者物価指数（平成17年＝100）をみると、総合指数は9月100.1で前月と同水準（前年同月比0.2%下落）となった後、10月は100.6で前月比0.5%上昇（前年同月比0.7%上昇）となった。前月比0.5%上昇の主な要因としては、「家具・家事用品」、「保健医療」が下落し、「被服及び履物」、「食料」などが上昇したため。また、生鮮食品を除く総合は100.3で、前月比0.3%上昇（前年同月比0.3%上昇）、生鮮食品は108.7で、前月比5.4%上昇（前年同月比10.6%上昇）となっている。

## (10)その他の動き

### 工業の動き（10月～11月）

業種別	企業ヒアリングの特徴点
一般機械	自動車産業、航空産業向けの軸受、ロボット関連などが堅調に推移している。工作機械や工具についても、堅調に推移している。また、原材料価格が全体的に上昇しているが、製品価格に転嫁しきれていない。
電子電気機械	半導体関連は、このところ生産、出荷ともに横ばいとなっている。抵抗器等については、生産、出荷ともに堅調に推移している。変圧器や配電盤等については、原材料価格が高値で推移しているが、生産、出荷とも堅調に推移している。
輸送機械	生産、出荷ともに前年に比べて低調に推移している。自動車部品については、生産、出荷ともにやや増加傾向にある。原材料価格が上昇傾向にあるが、製品価格に転嫁できておらず、収益面で影響がある。
金属製品	アルミニウム建材は、原油高及び原材料価格が上昇していることから、製品価格が一部上昇している。住宅関連については、建築基準法改正等による住宅着工戸数の減少により、生産、出荷ともに前年に比べて減少傾向にある。民生用包装容器は、生産、出荷ともおおむね横ばい傾向にある。
非鉄金属	国外向け自動車生産の増加に伴い、自動車用産業向けアルミダイカスト鑄造製品の生産は引き続き好調に推移している。
鉄鋼	特殊鋼は、生産、出荷ともに前月に比べておおむね横ばいで推移しており、また、軸受け、自動車メーカー向けとも堅調に推移している。原油価格の高騰に関しては、適切に価格転嫁が行われており、影響は今のところない。

業種別	企業ヒアリングの特徴点
紙・パルプ 印刷紙器	包装用紙等については、生産、出荷ともに横ばいとなっている。また、材料価格が高値で推移しており、製品価格に転嫁できていないことから収益性が悪くなっている。
化学	基礎化学品、機能化学品及び農業化学品については、生産が前年に比べて減少している。また、原油価格の高騰により、原材料価格が高騰している。医薬品は、前年より生産、出荷とも若干増加傾向にある。
木材・木製品	需要については、国産材は保合いながらも回復傾向、北洋材は保合いであった。供給については、国産材は保合いながらも回復傾向、北洋材は低調となっている。価格については、現況は、国産材は保合いながらも回復傾向、北洋材は強含み。先行きは、国産材は保合い、北洋材は引き続き強含みで推移する見込み。
プラスチック	工業用プラスチックは、原油高により材料価格が高水準で推移しているが、製品価格は横ばいのため収益性が悪くなっている。園芸用品については、受注量は横ばい傾向にあるが、工業用品、車両、通信機器関連については、生産、出荷ともに堅調に推移している。
情報サービス	システム、ソフトウェア開発の民間企業からの需要増加などにより堅調に推移しているが、人材確保が課題となっている。
繊維	材料価格の上昇のため、製品価格は上昇しているがすべて転嫁しきれないため収益は悪化している。生産、出荷ともに、全体としては低調に推移している。

#### 労働市場（富山労働局職業安定課調）

10月の富山県の雇用失業情勢をみると、新規求人数（パート含む。）は8,571人で、前年同月比9.1%減となった。主要産業別に新規求人の動きをみると、建設業（10.9%減）、製造業（16.2%減）などで減少した。また、新規求職申込件数（パート含む。）は5,340件で、前年同月比6.4%増となった。

労働力需給の趨勢を有効求人倍率（季節調整値）でみると、10月は1.12倍となり、前月比で0.05ポイント減少し、前年同月比で0.13ポイント減少となった。

#### 近年の企業立地動向

区分		12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
件数（件）	富山	24	30	24	25	25	32	36
	全国	1,134	1,130	844	1,052	1,305	1,545	1,782
敷地面積(ha)	富山	19	26	27	18	18	41	58
	全国	1,485	1,387	872	1,325	1,577	2,239	2,365

・主要企業用地の分譲状況

富山新港臨海工業用地	426.8ha (うち分譲済 412.8ha、分譲率 96.7%)
富山八尾中核工業団地	102.2ha (うち分譲済 81.1ha、分譲率 79.4%)
高岡オフィスパーク	9.6ha (うち分譲済 5.03ha、分譲率 52.3%)
小矢部フロンティアパーク	12.7ha (うち分譲済 7.86ha、分譲率 61.9%)

・最近の主な立地企業

企 業 名		業 種	操業開始年月	備考
塩谷建設(株)	高岡市	建設業(デザイン)	12年3月	
(株)大塚製薬工場	射水市	医薬品	12年12月	
富士ゼロックスイメージングマテリアルズ(株)	滑川市	化学工業(トナー)	13年4月	
カネボウ(株)・漢方ヘルスケア研究所	高岡市	医薬品	13年7月	
(株)ウィン・ディー	高岡市	デザイン業	13年10月	
(株)オプテス	高岡市	プラスチックフィルム	13年12月	
日産化学工業(株)	富山市	研究所(電子材料)	14年3月	
(株)エヌピーエス	砺波市	合せガラス	14年6月	
東洋通信工業(株)	高岡市	情報通信関連業	14年11月	
津根精機(株)	富山市	一般機械	14年11月	
(株)サンリッツ	上市町	電気機械	15年4月	
(株)プリテック	富山市	再生プラスチック成形材料	15年4月	
アイオーティーカーボン(株)	富山市	木炭ボード	15年4月	
富山グリーンフードリサイクル(株)	富山市	メタンガス有機質肥料	15年4月	
廣貫堂(株)	滑川市	医薬品(ドリンク剤)	15年11月	
(株)昔亭	富山市	食料品	15年12月	
A I U 保険会社	富山市	損害保険(コールセンター)	16年8月	
日本保険損害査定(株)	富山市	損害保険 ( " )	16年8月	
(株)サクセスパートナー	高岡市	情報通信関連業( " )	16年10月	
(株)アイ・テック	射水市	鋼材加工・流通業	16年10月	
日本ゼオン(株)精密光学研究所	高岡市	研究所	17年2月	
東亜薬品(株)新医薬品研究所	富山市	研究所	17年4月	
アメリカンホーム保険会社	富山市	損害保険(コールセンター)	17年7月	
明治薬品(株)富山西工場	富山市	医薬品	17年7月	
ファインネクス(株)上条南工場	富山市	電子部品	17年9月	
S T プロダクツ(株)新湊新工場	射水市	金属製品	17年9月	
松下電器産業(株)魚津新工場	魚津市	半導体	17年10月	
富士ゼロックスイメージングマテリアル(株)新工場	滑川市	化学工業(トナー)	17年12月	
日本ゼオン(株)精密光学研究所機械加工棟	高岡市	研究所	18年3月	
(株)サンリッツ入善工場	入善町	プラスチック偏光板	18年7月	
(株)T・ZONE	高岡市	金融(コールセンター)	18年8月	
シャープ(株)	富山市	太陽電池用シリコン	19年1月	
スズキ工業(株)	小矢部市	金型	19年2月	
(株)オプテス富山工場氷見製造部	氷見市	光学フィルム	19年9月	

は事務所・研究所